

哥西大學生學報

第百五十四號

昭和二十年十一月



關西大學生學報發行

關西大學 教授 西村勝太郎 著

新刊

會計學基礎原理

菊判上製四二二頁 定價 三圓五十錢

送料 二十二錢

本書は、會計學は企業經營に關する學問の領域に屬する知識を問題にするものとして、之を三編に分類し第一編總論に於て會計學の發生論的研究と研究對象の組織立てを試み、第二編財務表論に於て、從來會計學の主要部分を占めてゐた貸借對照表と損益計算書の解説を與へ、最後に第三編財産評價論に於ては貸借對照表の眞髓である評價問題を本題とし如何なる基礎を以て其の價格を掲ぐべきかを論じ盡してゐる。

大阪商科大学 教授 名和統一 著

日本紡績業と原棉問題研究

大阪商科大学 研究叢書第七冊

菊判上製五九五頁 定價 三圓八十錢

送料 二十二錢

新刊 我國綿業に就いての研究・論述は實にかずかずある。だがその原料基礎棉花との聯關における具體的にして而も全面的な研究はこれまで殆んどなかつたといつてもいい。原棉政策の基調が世界市場自由購入といふことであつた限り、紡績業にとつて原棉問題は基本的な分析の對象たるの意義を有ち得なかつたのであらう。だが現在に於ける日本紡績業にとつては、内外の政治的經濟的壓迫、その下に於ける日本綿業の前進自體の促すより、高次の政策上程への内的要請からして、原棉問題が決定的な意義を荷つてゐるのである。著者の研究はかゝる時勢的要求に對する一大寄與でなければならぬ。而もその新鋭なる理論は問題の所在を剴切にとりあげつゝ透徹せる分析を展開する。人々はこゝに理論と事實との卓越せる統一を見出すであらう。

日本經濟の再生產構造において、綿業の占める中軸的地位は、本書に展開された分析をして單なる特殊部門的研究に止らしめず、同時に又日本資本主義の基底的側面に對する分析・展望たらしめてゐる。かゝる意味に於て本書は又當然に綿業に於ける日本資本主義分析たるの榮譽を誇り得る所である。

株式會社

大 同 書 院

東京 駿河臺 中央大學 前
振替 東京 八一三八番
電話 神田 二二二八番

大阪 北區 梅田 新道
電話 一五九六七
三三五番

世界大戰に於ける米國學生に就て

——就中コロンビア大學を中心として——

教授 岩 崎 卯 一

目 次

世界大戰に於ける米國學生に就て……………	岩崎卯一	(一)
哲學者とノイローゼン……………	大小島眞二	(七)
學 內 報……………		(一〇)
明治節拜賀式—專門部第二次試験—國威宣揚祈願—第十二回大學祭—かくはう抄—應召軍務公用者……………		(一三)
校 友……………		(一五)
大連支部—由斯會—昭三會—斯文會—K.O.C.A會—勤靜—移動……………		(一六)
大 學 祭……………		(一七)
關大スポーツ……………		(一八)
陸上競技—野球—籃球—蹴球—蹴球—車球—ホッケー—ラグビー—柔道—拳闘—相撲—馬術—弓道—フエンシング……………		(一九)
學 生……………		(二〇)
皇陵崇敬會—參院會—商業研究會—東亞研究會—經友會—奈良縣人會—關大敵中會……………		(二一)
學報俳壇……………		(二二)

一回突如として發生し、現在眼前に展開され、而も何時平和の曙光を見るときも容易に推測し得ないところの日支事變を、社會學の一研究者としての立場から眺めるとき、何よりも先に自己の學問關心の焦點または學問研究の課題として撰びだしたい事象は、日支事變といふ如き典型的な激動期的社會情勢のなかにあつて、日本國民社會の各階層が如何なる反應作用を示すであらうかと言ふこと換言するとそれぞれの社會階層が戰時體制下にそれぞれの特色を帯びて現はすであらうところの社會意識と社會實踐とである。詳言すると、從來國難と見られた諸種の非常時に日本國民一般が發揮したと傳へられ、且つ歐米若くは支那の諸國民では到底期待することの出來ぬと信じられた學國一致の歴史的傳統が、今回の日支事變を通じて如何なる様相を以て現はれるかを、純粹に社會學の視角から觀察することである。單言せば、學國一致の姿を國民性、階級性、階層性、黨派性、時代性その他の社會範疇に照應して飽迄冷靜に研究することである。特に余は世界大戰中を米國大學に於ける一學生として送つた經驗を有つてゐるので、斯かる比較研究には寧ろ恵まれてゐると言はれるであらう。然し顧ると、今回の日支事變は軍事的にも外交的にも未だ序幕戰の域を脱したと言ふ程度であり、今後一層の難局に立つ日本を見るであらうことは何人も信じ且つ覺悟してゐる所であるばかりでなく、今日まで國民社會の諸階層のなかで最も複雑な社會イデオロギー的内容を自己に孕んでゐる有識階層（所謂インテリゲンチヤ階級）の大部分と其の中樞點とも目すべき學生層（大學

高等専門學校の學生)の全部が、今日までは未だ純戰時體制中に總動員されず一種の「國內中立地帯」を形成してゐるので、余の目圖するやうな學問作業を効果的に遂行することは、時期尙早の感なきを得ないのである。また現前の諸事象だけを判斷資料として研究を進めて行つても、事變の展開に伴つて豫期しない諸情勢の現はれることもあらうし、時には豫想を全然裏切るやうな事態に當面するかも知れない。斯くては理論構成の客觀性が動搖して來る。そこで、現在の日支事變で日本國民社會の各階層が示しはじめてゐる社會意識と社會實踐とを、過去の世界大戰で歐米諸國民が示したところの社會意識と社會實踐とに對照することによつて、彼等の異同を辨別したり又は優劣を評價したりすることは、前者に就ての研究資料が未だ充分に用意されてゐない今日では、遺憾ながら回避せざるを得ないのである。斯かる際には、日本國民の一人としては詔勅を遵奉し日本國家隆昌のための諸企圖に翼賛の微力をつくし、學問研究者としては社會現象の統一性に對する觀察の眼を能ふ限り鋭敏にし、社會現象の本質的動向に對する思索の頭腦を飽沍冷靜にし、以後後世の子孫の安んじて依據し得る諸資料を克明に蒐集することが必要である。斯様な配慮の上に蒐集せられた諸資料に基礎づけられた理論こそ學問的客觀性を保證せられたものである。

右のごとき根本意向よりして、余は二十年前海外留學生として歐米諸國に在つた頃見聞した戰時に於ける有識階層就中學生層の心構へと態度とを記述して見たいと思ふのである。この事は既に二十年前の過去に屬する史的事實に關する余の懐しき回顧資料であり、當時の余に横溢してゐた青年らしい情熱も今では可成り稀薄に成つてゐることもあり、記

述の客觀性は相當に認容せられるであらう。然し、編輯者により許されてゐる紙幅は極めて狭少であるから、茲では余自身が眼前如實に見聞した最も切實な印象、即ち米國コロムビア大學の學生層が歐洲大戰に参加した米國に對し如何なる態度を採つたかを素描して見たいと思ふ。記述の中心が常に余自身の經驗そのものに置かれるのは、印象の鮮明と逼力とのために止むを得ないところである。此點は豫め許して頂きたいと思ふ。

二

一九一六年の一月一日に米國中部の都市シカゴ市に到着した余は、二月五日より開かれる春學期の授業をうけるために、シカゴ市から六時間ほどの汽車旅行を南につづけて、人口三萬ほどの靜楚閑寂な森の町ゲレスブルグに達し、その地のノックス大學に入學の手續をしたが、五六百人の男女學生のなかで東洋からの學生としては自分一人であつた。この大學には一學期(三ヶ月)しか滯留せず同じ年の秋學期にはニューヨーク市のコロムビア大學に轉じたが、この田舎大學を擇んだ理由が英語講義に耳を慣らすのにあつたので、講演部學生などが旺に催す辯論大會などには缺かさず出席して青年の唇を洩れる激越な熱辯に耳を傾けたり拍手を送つたりした。この時分には歐洲大戰は既にはじまつてゐたし、米國を自分の側に引入れようとする運動は獨逸軍側も聯合軍側も熱心につづけてゐた際ではあつたが、大西洋の波濤より遙かな距離にあるこの米國中西部の大學町に漂ふ雰圍氣は、平和そのものであつた。學生達の辯論も平和論が多く戰爭を罪惡と視ることに一致してゐたが、特に余を驚

かしたのは、これ等の學生連が軍人社會に對し持つてゐた極度の差別感であつた。彼等は軍人になる米國市民を無用の長物だと考へ、愚弄の對象であつた。余の郷里は九州の佐賀であるが、その中學の首席卒業生は毎年海軍兵學校か陸軍士官學校かの入學試験をうける慣習があつたし、「秀才は軍人に」と人も我も思ひこんでゐたほど軍人禮讃の氣風が旺盛であつたのである。こんな家國氣に育つた余がノックス大學學生の軍人差別感情に觸れて驚いたのは無理もない。勿論米國の採用してゐるのは日本のやうな徴兵制度ではなく志願兵制度ではあるが、それにしても軍人に對する差別感の激しさには意外の感じがしたのである。

三

一九一六年の十月に余はシカゴ市からニューヨーク市に移つて、懷れの學園コロムビア大學に入學を許され、この大學で四ヶ年餘の學生生活を送つたので、余の米國生活は殆どニューヨーク市を中心とするものである。コロムビア大學はノックス大學などと違つて世界有數の綜合大學であり、當時學生數二萬人、教職員數一千五百人と言はれてゐたが、大學がこんなに大きなものになると、各個の學生生活は却つて大學内の狭い交友圈に制限されるもので、余の關心も自然に自分が屬してゐる政治學部に置かれ、特にこの學部内でも社會學科に集中されるやうになつた。この學部に席を置く日本留學生も二十人ぐらゐあつたし、支那留學生も三十人ぐらゐ居つたやうである。現在では中華民國國民政府の立法院長をしてゐる親露派の孫科のごときは、當時未だ白面の留學生であり余と盛に議論を闘はしたものである。北平大學總長胡適も當時コロムビ

ア大學哲學部の學生で、教室で秀才らしい彼の顔を見たこともある。一九一七年十一月の露西亞革命でレニンと並んでこれを成功させた大立物トロツキーも當時ニューヨーク市に亡命中で、時々コロムビア大學に來て、ギディングス教授の社會學の講義を盜聴してゐたさうであるが余は氣がつかかなかつた。大學所在地は各國民の鎔鑪と言はれるニューヨーク市であるし、大學そのものは世界各國から來た一千を超える留學生を抱容してゐるし、又大學の教育方針が極端と思はれるほどに「自由」であるし、余はこの中の生活から種々なるものを學び、種々なるものを經驗したのである。なかにも最も強い印象を與へられたのは、余がコロムビア大學に入學してから一ヶ年經過した一九一七年四月六日、米國が二ヶ年半の中立を捨て聯合軍側に加擔す可く獨逸に宣戰布告した後に、コロムビア大學の學生大衆が示した不思議なる熱狂である。戰爭反對か？、あらず參戰絕對支持である。

四

ニューヨーク市に入りコロムビア大學の學生となつた一九一六年の秋に、余の眼を何よりも娛ませたのは米國大統領選舉戰であつた。候補者は民主黨から當時の大統領ウィルソン、共和黨からヒューズ。ウィルソン大統領の掲げた諸種のスローガンのうちで巧に一般大衆の心を捉へたのは平和政策であり、辻々につられたボスターには「ウィルソンは戰爭から米國を救つた」と書いてあつたのを確に記憶してゐる。このことはウィルソンが米國大統領に再選されると米國は依然中立政策を繼續して歐洲大戰の渦中に捲きこまれないと言ふ誓約書を入れたことを意味す

る。平和を愛好し戦争を嫌悪する一般大衆の心理に訴へてその持つ一票を狙つたところ巧妙な選挙戦術である。特にウイルソン側はニューヨーク市の貧民街から日雇稼人の女房とか子供とかを何百人と日給で集めて来て、街路を堂々(?)と行進させ、而も可憐なこれらの婦人と子供とに聲高く「戦争は厭だ、平和が好きだ。ウイルソンは米國の神様だ。戦争から米國を救つてくれたのだ」と叫ばせた光景は、當時余が福岡日々新聞に詳細通信したところである。一般の印象では、共和黨は有産階級に支持者が多く、戦争成金どもが黨費を負担してゐるからヒューズが當選したら米國を歐洲大戰に引きずりこむ惧があると言ふのであつた。この印象を極度に利用したのが民主黨のウイルソン側で、如何にも戦争で一番迷惑を蒙る無産大衆の唯一の味方であるやうな宣傳を猛烈に行つたのである。民主黨の策戦は事實効を奏して、全米國民を熱狂させる晩秋の選挙開票日に、ニューヨーク市四十二丁目タイムス街角の新聞揭示を終夜大群衆とともに立ちつゝ眺めた余の眼の前に、壓倒的多數によるウイルソン再選が報ぜられた。大群衆はウイルソン大統領の指導下に置かれるこれからの四ヶ年間の米國中立を確信し、旺に祝盃をあげたものである。

ところが、それから僅に半年経過したに過ぎない一九一七年の四月には、米國大統領ウイルソンは何を感じてか、「我等は民主主義のために戦はざるべからず」と叫んで、米國を歐洲大戰の渦中に引きずつて行つたのである。一種の詐欺取財にも等しい豹變振りである。

五

籲つてコロムビア大學の學生達の動靜を観ると、一九一六年冬から翌年の春にかけて、新聞部とか講演部とかは、「平和か戦争か」とか、「中立か参戦か」とかの時流を追ふた題目を捉へて、學生の論文なり感想文なりを募集したり、或は討論會を開催したりして、學園生活を賑かにしたものである。言論自由が極端に認められてゐる米國大學だので、賛否の論が囂々たるものあり、時には教授でも新聞社主催の公開討論會などに出て、堂々と賛否の論を闘はすといふわけで、年齢已に六十を遙に越えてゐられた社會學の權威ギディングス教授のごときも、新聞に雜誌に又教室にて講堂にて倦きず米國参戦論を鼓吹し、獨逸討つべしと敦囑いて、當時獨逸最良であり又思想的にも動搖しはじめてゐた余をして屢々鞏固せしめたほどである。何分にも米國には何百萬人と算へられるほど獨逸系米國人が住んでゐるし、又コロムビア大學にも澤山な獨逸系米人學生を收容してゐる上に、彼等の大部分が頭腦優秀者といふ譯けで、中立論の勢力も亦侮りがたいものであつた。日刊新聞紙として發行してゐたコロムビア大學學生新聞の論調も全く中立の態度を把持し、兩派の主張を公平に紙面上に反映させてゐた。

ところが、一九一七年四月上旬、米國大統領ウイルソンは獨逸に向つて戦を宣し、聯合軍側の一員として自國新銳の將兵を佛蘭西戰線に送る決意を示した。茫然たりしは米國の一般大衆である。「ウイルソンは米國を戦禍から救つた」とのポスターで、一般大衆から大統領選挙に對す

る貴重な投票を購ひ得た當のウィルソンが、二期目の大統領に就任するやいなや、米國市民一般の上に投げた言葉は「中立廢止・戰爭參加」である。恐らく米國市民の大多數は裏切られたやうな氣持がしたに違ひない。

コロムビア大學にも瞬時にして「奇蹟」が生じ、米國學生の氣風を未だ充分に呑み込み得なかつた新入學生の余をして驚かせた。四月中旬コロムビア大學の大集會所に全學生が集合を命ぜられ、バトラー總長はじめ教職員も全部これに集つたのである。この大集會所にこれだけのコロムビア大學關係者が集まることは稀有とするところである。三十幾歳から三十ヶ年間をこの總長として勤め、後年「ノーベル平和賞」を貰つたバトラー總長は、政治家としても既に共和黨有數の大統領候補者であつたが、定刻となると巨軀を起し大演説をはじめた。驚くべき雄辯家でこの人が嘗て哲學教授だつたことを想ふと不可思議な感を抱かざるを得なかつた。彼の演説の一句一句は全學生の雷のごとき拍手で迎へられた。論旨は「自分は今日迄政治的にも思想的にもウィルソン大統領と意見を異にして來た。彼の政見と政治とに對する最も強い反對者であつた。しかし彼が一度米國國旗を代表して參戰することを全世界に公言した以上、米國市民の一人たる自分は敢然彼の政策を支持する積りである。だが今日は二萬の學生を擁するコロムビア大學の總長としての資格でこゝに立つてゐる。諸君が若し支持して呉れるなれば、自分はコロムビア大學の名に於て、米國國旗の向ふ所に支持を惜まぬと言明したいと

思ふ」と言ふのにあつた。彼の言葉が終らぬうちに、場内には破れるばかりの大拍手が起り而も十五分間つゞいた。こゝに於てコロムビア大學の意志が公式に而も最終的に決定せられたのである。

翌日からコロムビア大學は戰爭の一色に塗りかへられた。あれほど自由を守つて來た新聞部は戰爭反對論は勿論その疑のある原稿までも悉く沒書として完全に總長支持に轉向し、講演部はニューヨーク市の隨所に演説會を開催して一般大衆の兵役志願を獎勵鼓吹し、これまで平和論を唱へてゐた教授も學生も昨日を忘れたるものゝごとく嬉々として米國參戰を謳歌し、日本からの留學生をして屢々首を傾けしめた。教室で數分間バトラー總長の立場を批判したといふだけの事由で、政治學科の主任教授であり世界的學者と言はれたベアード先生も即日解職されて、百七十年に亘るコロムビア大學史に會て見ざりし教授罷免の新記録をつくり學生多數もこの所置を冷然と見送つた。一外國學生である自分には、この驚くべき大學の言論統制が、如何なる機構を通じて行はれたかは知る術もないが、大學當局の自發的統制によることだけは疑ふ餘地がなかつた。實に心憎きまでに鮮かな統制である。

六

間もなく暑中休暇がはじまり學生は酷暑のニューヨーク市を避けて、山に海に田園に行き四ヶ月のながい休暇を送るのである。一九一七年の九月末に再びニューヨーク市に歸り下宿に腰を落ちつけると室代が二倍に上げられてゐる。米國參戰に冷淡だつた余も先づ室代暴騰で戰時氣分

に引きこまれた。ところが、コロムビア大學に歸つて秋學期の授業料を納め、先づ社會學講義に臨んで見ると、平常時に二百人位の聽講者を集めたギディングス教授の教室も空々寂々、二十人ほどの婦人學生と他に外國からの留學生が二十人ばかり、學生の主力たる米國青年の姿は病弱者と猶太人系米人との十數人を算へるのみである。それでも愛國心の強いギディングス老教授は寥々たる教室で愉快さうに講義をつづけられた。何故か。これ等の米國學生は殆ど全部暑中休暇中に一兵士として志願採用され、多くは既に硝烟しげき佛蘭西の戦線に出征し、米國星條旗の下に戦つてゐたからである。顔馴染みの學生などが休暇を利用して母校に軍服姿を見せると、後に残つてゐる女學生などが早速取りかこんで慰勞の姿勢を示し、忽ちの間に軍人ならぬと云ふ風潮が現出した。ノックス大學の學生から兵隊は人間の屑が成るものだとの言葉を目にしてから僅に二ヶ年、軍服一色に變化したコロムビア大學の戦時風景を見て、社會風潮の變化に於ける激しさを痛感したのである。やがて、學生にして戦死したものゝ氏名の發表が數を加へた。後には餘り多數に上るので人心の影響を慮つてか氏名發表も中止せられた。若い教授や講師にして志願したものも多かつたが、多くは一躍將校待遇となり、相當に聲名ある教授は多く少佐待遇だつたやうに記憶する。

七

一九一四年に歐洲大戰勃發し、八月四日に英國が參戰すると、衆に先

んじて志願兵と成り、佛國戦線に出征して戦死したる者の大部分が、ケンブリッジ大學とオクスフォード大學とに學ぶ貴族または富豪の子弟であつたことは、戦史と統計との明瞭に證明するところである。貴族を有しない米國で貴族に相當する者は富豪である。米國富豪の子弟は我國で想像され勝な意墮、放縱、怯懦の徒輩ではない。余の親しく見聞したるコロムビア大學でも、米國星條旗の下に一兵士として志願し、眞先に大西洋を越えて戦地に赴いた學生の多くは、富豪の子弟であつた。最後まで軍務を忌避してゐた學生は、例外なく猶太人系米國人であつた。この事は英國や米國を好むと否とに拘らず、一の三省すべき事實である。

いま日本には國民精神總動員運動が、公爵近衛首相と侯爵木戸文相とを主なる指導者として國民一般に行はれてゐる。慶祝すべきことである。されど此等貴族出身の政治家を教養したる日本の特權階級的學園が偉大なる母校出身者の前掲運動を如何に評價してゐるかを、眼光紙背に徹する用意を以て、それ等學園の學生志向を語る機關新聞に就て、省察せられんことを希望する。而して何故に斯かる日本獨自の學園現象が存するかを研究することは、始に言つた如く社會學研究者としての余の將來に於ける仕事である。

(十一月四日)

哲學者のノイローゼン

教授 大小島 眞 二

アレクサンダー・ヘルツベルクの研究に依れば偉大なる哲學者の殆ど半は低格者的 (psychopathisch) 若しくは變質者的特性を持つのみならず又程度の差はあれ明かにノイローゼン (Neuroser) 即ち神經疾患の徴候を示してゐて、そのあるものは精神錯亂又は狂氣さへ進んでゐる場合があると云つてゐる。

ロンブローゾーが天才と氣狂との關聯に就て強調してゐる事は周知であるが、ヘルツベルクの説が幾許かの眞理を傳へるものとすれば哲學者に於てそれが如實に證明されてゐると云へよう。

一般にノイローゼとは、神經衰弱とか憂鬱症 (Hypochondrie)、抑鬱症 (Depression) ヒステリー、小心症、恐怖症等の神經系統の疾患の總稱であるが、かかる病症の原因は何であるか、精神分析派の説明によれば、衝動を醇化する (sublimieren) 人間の能力は人によりて差があり、然してそれは常に制限を受けてゐる。そして衝動力 (Triebkraft) の一部分は、根源的な人間の諸目的に向ひ且働いてゐる作用によりて又これ等諸目的の到達によりて満足せしめられる。然しこの衝動力の醇化が、克服出来ない禁止 (Hemmung) の爲に衝動力の醇化されない部分にとりて不可能となるなら

ば、ノイローゼ的な病症が起きるのであつて強度の禁止 (Hemmung) がかくしてノイローゼの傾向を惹き起すのである。

フロイトに依れば、強度の衝動も又同様なものとなるさうで、そこに衝動力と禁止の強い性質を有せる哲學者がかかる傾向を帯びるに至るのであらう。

私はヘルツベルクの著「哲學及哲學者の心理學に就て」(Zur Psychologie der Philosophie und der Philosophen 1926) によりて次の著名なる哲學者のノイローゼを打診して見よう。

然し是に依りて彼等哲學者の業績を傷つけるものではなく却つて人としての彼等の一面を知る事によつて理解が深まるものと信じる。

キエルケゴールと並んで現代哲學に最も深くして強い影響を與へてゐるニイチェは、嘔氣と視覺障害を伴へる重い頭痛の發作に悩みその爲め三十五歳で大學の教職を棄て又彼の仕事の能率や氣分を極度に妨げたと云はれてゐる。然しそれが精神生活に關係したものか身體的狀態に關係してゐたかは結局確かでないが、晩年麻痺狂に罹り頓狂院で死んだのは餘りにも有名である。

スペンサーも惠まれてゐなかつた。三十五歳で不眠症と頭の中の麻痺感に悩み、注意深い節制にも拘はらず苦痛は減じなかつた。そしてちよつとした精神上の努力にも敏感に反應した。一ヶ年半の静養さへ彼の健康は恢復しなかつた。最もいい場合日に三時間みづちり仕事出來たが、屢々これさへもやめた、それにも不拘神經衰弱の惡化に愈々苦しんだ。六十歳の終頃非常に惡くなつて抑鬱狀態に長い間を過した。そしてその頃仕事の能率は最も低下したと云はれてゐる。

ミルの神經衰弱症も若い頃からであつてその徴候は總てのものに興味がなくなり、無關心となり且非常な不氣嫌と云ふ事であつた。そんな事が半年續いて、それから又數ヶ月間は一層重くなつたが結局健康をとり戻したと云はれてゐる。

フエヒナーは生涯の中間三年間を重いノイローゼ症狀の内に送つた。初めは神經衰弱の兆があり、不眠、思考の完全なる不能、悲哀な氣分と生の倦怠、後には強い羞明 (Lichtscheu) となり讀む事も書く事も出來なくなり、外出の際は眼に繃帶をした。遂に彼は何事も樂しめなくなり、幾週も喰へも飲みもせず過して骸骨の様に瘦せ細つてしまつた。ある日知人が食物をもつて行つた時は彼は途方に暮れた。結局薦められて喰べたが害はなかつた。そしてその頃から徐々に消化力も體力も出て來た。然し視力や精神作業は不能であつた。却つて是迄の精神衰弱やヒステリーの症狀に新しく強迫現象があらはれた。又思考の過程は意志から離れてしまひ、何か對象に觸れば思考は活動し始めるがそ

の同じ對象の周圍を無限に廻轉し、いつも同じ所に歸つて來て果しなくなり、それが腦髓中に錐を揉むが如く入り込み、ために、精神は茫然自失するが如き感をもつたと云つてゐる。所が一日忽然して變化が起り三年以上ものかかる苦惱の後に病の總ての兆候はなくなつてもとの緊張した精神狀態に歸つた。

ショーペンハウアーは三十五歳の時、色々の病を次々に經驗したがその中には神經の病をあげてゐる。その時の手紙の一節に「一ヶ月以來病氣は直つたが未だ神經衰弱であるので裸へる手であなたの手紙をとり非常な努力でこの返事を差上げるのだ。私はやつとひよろひよろ歩く事が出来るが晝も寝込んでゐる。」

八年後再び病に罹つた。彼は二ヶ月も世間から離れて最も荒廢した氣分に落込んだ。彼の母が彼に書いた手紙に「お前がお前の健康やお前の人間嫌ひや沈鬱な氣分に就て書いて寄越したがそれは言葉に現はせない程私を悲ませる。お前はそれが何故かを知つてゐる筈だ」

コントは廿九歳の時に全く突然精神病にとりつかれた、それは他の場合と同じく消化障害・不眠・憂鬱と迫害妄想でそれに興奮状態や憤怒勃發が甚いので彼の妻は家を去らねばならない程であつた。

然し殆ど二年近い養生の結果漸次快方に向つたが、晩年再び著しくはないがあきらかにそれと認められる程度の痴呆性が進行した。革命黨員が彼の生命をつけ狙つてると云つた様な觀念は被害妄想の刻印をおされ又人間界の高僧と自認して誇大狂とされるに至つた。

シェリングは多年に亘つて強くなつた鬱癡症の氣分に襲はれて屢々困つてゐる。そして若い頃の潑刺さ

や計畫癡を失ひ、仕事の力や自己感情が後退した。彼の作品の完成や發表の名狀すべからざる嫌厭はこれを物語つてゐる。要するにこれ等は神經衰弱の病狀と云へる。

後にヘルバルトはこのシェリングと同じ病氣を若い學生時代に經驗した。猜疑・抑鬱・自殺思念はその兆であつた。

カントは若い頃、變調子な心臓壓迫感の爲、生を倦厭する迄悩んだ。彼は然し自制により即ち注意の轉換によつて漸次この壓迫感が氣分や思考や行動に影響するのを避ける事を會得した。

一面直觀的天才哲學者であるが、他面マゾヒズム的な露出症的傾向を多分にもてる性的生活、徳性の缺陷漂浪癖をもてる人として、要するに重い異常精神所有者であつたルソーは廿四才で、神經衰弱・ヒコボンドリー症狀のノイローゼに罹つた。彼は弛れて憂鬱であつた。取るに足らない些細な事に泣き、間もなく近い内に死なねばならぬと信じた。一時よくなつた後に、ある日ちよつとした精神上の緊張の際奇妙な發作が現はれた。睡眠中高く槌を打つ音、急に耳が聞え難くなると同時に耳の中にブンブンとかザーザーとかの雜音が聞えて來る等、加ふるに胸苦しさ、不眠性、驚き易さ、氣紛れ等の病狀が現はれて來た。腰を曲げる時の眩暈や歩く時の呼吸困難が肉體的活動を禁ぜしめた。遂に心臓茸腫症に罹つてゐるとのヒコボンドリーの考へが起つてモンペイエにある有名な醫者の診察を受ける爲めに旅に出た。その途中一人の婦人と知合になり、彼は多くの興味を彼女に感じその交遊に於て彼の

熱病もヒコボンドリーも心臓茸腫も動悸症を例外として總ての持病が忘れられてしまつたとある。

五十才を越えてから、生活に無能な、物質の心配に苦しみそして政府に迫害されたルソーは漸次精神病的特徴が強くなつて來た。

一七六二年彼の著「エミール」と同様にゲンフの醫者の教育に就ての著述が出た。それはハーレム翰林院によつて表彰されたのであるが、ルソーはこの本は二三の平凡な部分を除いてエミールの第一巻から一語一語を引き寫したのだと、全く根據のない事を主張した彼は秘密な方法で盜まれたと信じ、翰林院賞、又翰林院自身さへも欺瞞なりとし、この剽竊を公衆の面前に發かんと工夫した。

一七六六年の初め彼は追はれて英國に赴いたが、ヒュームはこの亡命者に安全な庇護を與へた、然し英國の新聞は彼を輕蔑し誹謗的な記事を掲げたので彼の狂性は忽ち激發し、ヒュームに置手紙をして去つた。その中に彼を卑め名譽を毀損した共謀者の仲間であるヒュームを責めてゐる。

ルソーはそれから英國を狂ひ廻はり、途中で首相に一書を呈して、英國を去りたいのであるがこれは決して敵を恐れたのではない。何卒政府指令の案内人を御願ひしたいと書いた。又別にコンウェイ將軍にあてた書翰に、ヒュームの爲めに國事犯人となり殺害される恐れあり、何卒英國を去る許可を與へられん事をと嘆願してゐる。又あるルソーの友達が病氣になつた時に人々がその友達に毒を呑ましたと疑つた。

後に佛にブルジョア城内で精神錯亂の典型的な迫害

妄想に就て彼は書き記してゐる。

「私の立つてゐる床は眼を持ち、私の周囲の壁は耳を有してゐる。間諜や悪意ある看視人によつて取りまかれ、不安と混亂の内に非常に急いで二三の支離滅裂な文字を能く書く。」

ヒュームは十六才の時、度を過ぎた精神労働のため疲労、無氣力、抑鬱的な病症を呈した、四年間彼は時として静養、時として研究によりて神經衰弱症と闘つたが結果はよくなかつた。それで實際の職業に轉じ商人となつたがこの試みは二三ヶ月の後見込なきものと分つたそれで今度は旅行に出掛けた。それが到々充分な恢復を齎すに至つたのである。

ドナウの沿岸の冬の陣營中、若きデカルトに起つた特有の精神症狀は有名である、即ち不安、抑鬱、興奮猜疑、小心等はそれを特徴づける。疑もなくそれは神經衰弱的徴候である。然しその恢復はアウグステイヌの場合と同じく突然彼の上に現はれた天啓、即ち解析幾何學及それから導き出された明かなる原理と方法の上に哲學を根據づける事の決定に依りて出來たのである。

アウグステイヌに於ては三十才の初頃、内的な變化が兆し始めた。然し未だ世にとらわれてゐたが既にして彼の内に新しい意志即ち神への憧れが芽生へて來た。その懺悔録に

「かくして世の重荷が眠れる私の上に靜に加つた。私が神に向つてゐると云ふ考へた起ち上らうとする努力に似てゐる、然し眠りの深さの爲め再び後に倒れる」と云ふ一節がある。

それから彼の靈の内に不安が起り彼の日常の仕事は彼には苦しみとなり、神への救ひの爲め絶えず祈り、かくして世の活動から逃れて教會に行つた。然し靈の不安は愈々堪へ難く募り、職業上の責任の壓迫感に愈々苦悶の種となり、救済への憧れは愈々熾烈となつた。

彼の詩情や宗教的色彩を湛へた描寫の内にそのノイローゼの特性即ち抑鬱、仕事嫌ひ、地上生活の嫌厭、不安等を知り得るのである。二人の官吏の突然の改宗の物語りによる小さな動機が驚くべき力の爆發に導き力強い熱情の嵐が心内に哮り狂ひ、彼のこれ迄の微温的な行動に就て非常に激しい良心の呵責が彼を襲ひ、彼は髪を搔き額を亂打し、涙は滂沱として下るのであるが、遂に彼にとりて神の啓示なりと思はれる聖書のある箇所を讀むに至りて心の平和が來り、それが世事の斷念と共に心の痛苦を治癒させるのである、即ち醫學的にこの事は、抑壓されたる衝動を醇化に導き、そしてこの形態に於て衝動に活動の道を開くのであると云へる。

要するにヘルツベルクの解釋によれば、偉大なる哲學者は異常なる衝動力の所有者であり同時に、彼等の許に心理的生理的に働く作用の禁止が非常なる強度をもつてゐて、その事が彼等偉大なる思想家にノイローゼの素質を強大ならしめる結果となるのである。然しながら斯かる説は精神分析派の流れを汲む通俗に墮した淺薄なるものであるが、又一面一つの新しい研究の分野を示してゐる點必ずしも興味が無いではないとある獨逸の學者は批評してゐる。

【新刊紹介】

野村次夫

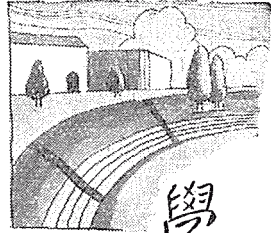
西本寛一氏著

『株主總會決議無効論』

久しく會社法の研究に没頭せられ、その成果として既に、『株金拂込論』『株式會社定款論』『株式會社重役論』の三者を刊行せられた本學校友辯護士西本寛一君は、最近更にその姉妹篇として、『株主總會決議無効論』なる新著を世に問はれた。

本書は株式會社法論中學理上も、實際上もしばしば問題となる株主總會決議の瑕疵を取扱はれたものであつて、これを總説、第一章決議の取消（第一節決議取消の事由、第二節決議取消請求の方法）、第二章決議の當然無効（第一節決議當然無効の事由、第二節決議當然無効の主張方法）に分ち、先づ大審院を始め下級審に至るまで各裁判所の判例、その他決議等を紹介し、かつ批判せられ、加ふるに松本、田中、竹田、鳥賀陽諸博士を始め我國商法學者の重要な著書雜誌論文等を書中隨所に引用、讀者の便に供してゐる。又條文は現行法のみならず改正法案の相當條文に及び、之を論ぜられてゐるから、新會社法研究の一助ともなる。

論述の方法は、さすが多年實務の経験を持たれる著者だけあつて、書名のかたくなるしさには似ず、何人にも氣輕にかつ興味深く讀み得るやう、こなして書かれてあるから、一般實務家諸氏の參考にはもつてこいであると思ふ。茲に本務繁忙の中にこの好著をものされた著者の勞を多とし、これを江湖に紹介する所以である。（大阪・大同書院發行・菊版二八〇頁・定價二五〇）



學内報

明治節拜賀式

十一月三日、明治節には學部及豫科は午前十時半より、専門部は午前九時より夫々拜賀式を舉行した。

専門部第二部第一次試験

専門部第二部第一次試験は十一月五日より全十一日に亘り施行した。

國威宣揚祈願

十月十七日、國威宣揚と皇軍の武運長久を祈願する爲、教職員並に學生生徒一同、中之島鹽國神社に玉串奉獻參拜した。

第十二回大學祭

十月十七日（日曜）午後零時半より、中之島中央公會堂に於て別項の如く開催した。

がくほう抄

- ▽經商研究會 十月二十一日午後三時より天六學舎に於て開催、神戸正雄博士の「公債か増税」かと題する研究發表があつた。
- ▽世界經濟研究會 十一月七日、當番校たる本學天六學舎三階會議室に於て開催す、報告者は神戸商大教授田中金司氏、（出席者十六名）本學より正井、森川赤羽、中川教授出席す。
- ▽矢口孝次郎教授 十月二十二日より三日間東京にて開催の社會經濟史學會第七回大會に出席「英國封建制度と其の王政」なる研究發表をなした。
- ▽中村良之助教授 十一月四・五兩日東京一ツ橋講堂に於ける人口問題研究會に、六・七兩日東京文理大塚地理學會に出席
- ▽和田豐二教授 三島郡吹田町泉町三三〇四、原田辰夫氏方に仮寓
- ▽協議員池尾芳藏氏 兵庫縣武庫郡甲東村下大市五ヶ山七一〇（電西宮一八九五）に轉居せられた。
- ▽玉木專務理事令息 十一月五日玉木專務理事令息應召され廣島歩兵聯隊に入隊
- ▽里見復二氏（學生課 旭區江野町二〇二に轉居。
- ▽箕田正一氏（元講師） 東京市杉並區阿佐ヶ谷四丁目三八七に居住。
- ▽上田 操氏（元講師） 神戸地方裁判所判事より東京控訴院判事に轉任
- ▽大野新一郎氏（元講師） 和歌山地方裁判所判事より神戸地方裁判所判事に轉任
- ▽岩井勝二郎講師 本學講師にして京都帝國大學教授たりし氏は去る十一月二日逝去せられた。

應召軍務公用者（其の三）

本誌前號所載以後支那事變軍務公用者として應召出征の本學教職員並に校友、在學生諸氏の中判明せるは左記の通りである。（十一月十一日）

教職員

柴田 定藏 學生主事補（千里山學生課）
梅垣 貞一（會計課）

卒業生

中上 正雄（大十一大商）
柴田源之助（昭二大經） 上海戰線にて名譽の戰死
陸軍歩兵少尉（下校部除） 遺族、大阪市東成區西今里町二八八、父柴田宇三郎
澤田捨次郎（昭四大法） 松谷 博（昭九大法）
濱本 遠（昭十大法） 大塚 謹二（昭十一大法）
高畑 勇夫（昭十一大法） 中西 親文（昭十一大法）
岸上 正暢（昭十一大法） 大江五十雄（昭十一大商）
黒田 隆一（昭十一大商） 戸伏 正孝（昭九專一商）
高橋 貞美（昭十一專一商） 戰傷
高井 重彦（昭十一專一商） 十月十日名譽の戰死
竹原 弘（昭十一專一經） 十月十六日（篠山歩兵七〇聯隊）北支娘子關に於て名譽の戰死
渡邊保太郎（昭二專文） 歩兵上等兵（三件部隊那須部除）上海戰線沈家宅にて三日に亘る激戰の後右脚負傷、目下廣島陸軍病院基町分院二十七號室にて療養中
釣 仁八（昭四專法）

諏訪 幸人 (昭六 專法) 北支陵縣附近にて負傷
 森本 政一 (昭八專二法) 山手 實夫 (昭八專二法)
 柴田 太市 (昭八專二經) 八月二十四日長城線の戰鬥
 にて胸部貫銃創及左眼破片創、目下福山病院外
 科一號室にて療養中

小西七太郎 (昭九專二法) 吉崎 幾藏 (昭九專國)
 小野 恭平 (昭十專二商) 九月二十三日赤柴部隊に屬
 し、北支滄州攻戰に參加、名譽の戰死
 遺族、岡山縣上房郡津川村今津、父小野末太郎

中田 昇 (昭十一專二法) 諏訪 伴夫 (昭十一專二商)
 田中 正秀 (昭十一專二商) 安達 省一 (昭十一專英)

在學生

高階 一三 (學部 法三) 小松源之助 (學部 法二)
 宮脇博太郎 (學部 法二) 清水 正春 (學部 法二)
 重松 光夫 (學部 經二) 名譽の戰死
 榊原 勇 (第二豫科二)

熊澤 一夫 (專一 經二) 直原 克己 (專一 商二)
 沼田 武夫 (專二 法三) 谷井 利一 (專二 法二)
 辰野宇太郎 (專二 法二) 上田 龜義 (專二 法二)
 佐野 豐 (專二 法二) 静岡三十四聯隊に屬し九月

十一日上海戰線揚行鎮の戰鬥にて名譽の戰死
 遺族、大阪市天王寺區大道三丁目一五九、兄佐野
 敦

川邊 芳松 (專二 法二) 陸軍歩兵少尉 (津三十三聯

隊第二中隊第一少隊長) 九月二十一日北支大城の
 東日洋附近にて胸部貫銃創、日下三重縣一志郡
 久居町陸軍病院にて療養中

道工太刀雄 (專二 法二) 賀須井良雄 (專二 法二)
 岡本 一 (專二 法二) 川嶋 隆 (專二 法二)
 高崎 榮 (專二 法二) 中井 正 (專二 法二)
 矢野 勘 (專二 法二) 福井 正義 (專二 法二)
 佐藤 惠作 (專二 法二) 安井 治久 (專二 經三)

岡田 益實 (專二 經三) 歩兵上等兵(七十七聯隊)
 九月二十八日名譽の戰死
 遺族、高知縣香美郡立田村二二一三

根本 利末 (專二 經三) 西村秀四郎 (專二 經二)
 永井 茂 (專二 經二) 山澤 篤實 (專二 經二)
 高橋 行夫 (專二 經二) 十月十四日名譽の戰死
 遺族、廣島縣佐伯郡平良村上平良、父高橋運平

中川 泰弘 (專二 經二) 倉垣 良典 (專二 經二)
 兒玉 正三 (專二 商三) 二十三聯隊に屬し、九月十
 三日保定附近にて名譽の戰死
 遺族、宮崎縣兒湯郡妻町南町、父兒玉重市

小橋 健司 (專二 商三) 宮原 章 (專二 商三)
 濱田八三郎 (專二 商三) 井上 健治 (專二 商二)
 時水 保雄 (專二 商二) 鳥取 長 (專二 商二)
 辻 政一 (專二 商二) 楠 義雄 (專二 商二)
 八幡久治郎 (專二 商二) 安岡 重勝 (專二 商二)

宮本 要 (專二 商二) 津田 正男 (專二 商三)
 松倉 正一 (專二 英二) 寺田 修藏 (專二 英二)
 中小路利春 (專二 英二) 箕浦 光夫 (專二 英二)

高文試驗合格者

昭和十二年度高等文官試驗合格の本學卒業生並に在學
 生は左の通りである。

(司法科)

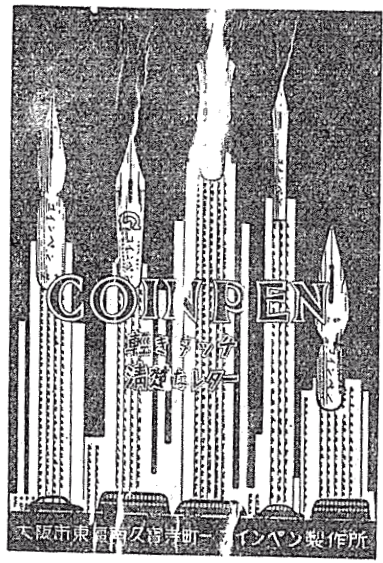
岩井 八束 (昭七專法) 後藤 睦朗 (昭六專法)
 竹島 義郎 (昭六專法) 鍵尾 豪雄 (昭七大法)
 北川 靜雄 (昭七大政) 鹽見 利夫 (昭七專法)

伊藤 一雄 (昭八專一法) 段林作太郎 (昭八專二法)
 澤村 英雄 (昭八專二法) 本井 吉雄 (昭八專二法)
 塚本 義明 (昭九大法) 永田 旭 (昭九專二法)

森 健 (昭九專三法) 鳥巢 新一 (昭十專二法)
 澤 克己 (昭十專二法) 植垣 幸雄 (昭十一專二法)
 土井 義明 (昭十二專二法)

(行政科)

吉岡 英一 (昭四專法) 佐藤 忠雄 (昭十專一法)
 押目 初夫 (大法三年在學)



校 友

大連支部

九月二十日午後六時より傳家庄安兵衛茶屋に於て、第十八回秀麗會を開催す、今回は恰も仲秋の名月を前日に迎へ、今晚は十六夜の月と云ふ絶好のチャンスをつまへながら、砂石亦綺麗空に雲なく海上には微風さへ起らず、地上一切が静寂、仲秋の名月は徐々に皎々たる光を放ちながら、半島の中央より昇り次第に天心に近づいて行く、降るが如き月光を浴び乍ら汀近き砂上に席を造り、中に成吉思汗鍋を据ゆれば、肉はデユウ／＼と音も高々に焼け始め一同は舌鼓を打鳴す、實に美味い／＼と連發、其處へ秀島、三橋の兩君が一時間前に太公望の胸前を見せんと碧海に乘出し、大物三四を釣上げ來たり、早速刺身として一同の食欲を彌が上にも唆つた、實に英雄の閑日月にも似たる心地して愉快に數刻を過し、月光の下、大海を前に學歌を高唱し、午後九時半散會。

歸途文化臺の飯田氏邸宅に招ぜられ、實に大連には稀なる廣々たる庭園に卓を圍み茶菓を喫しながら、十一時過ぎ迄談笑した。

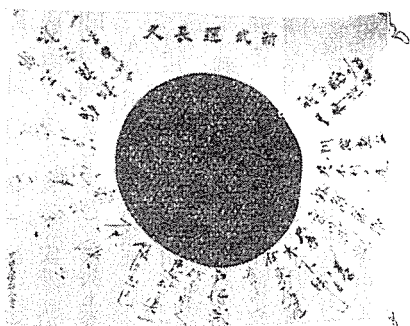
(出席者) 高塚源一、高濱直一、飯田昇、室山宇太郎、飯野重則、秀島全治、光井章雄、三橋正實、平井三朗

由 斯 會

母校出身の教育者より成る由斯會にては去る九月二

十六日(日)天六學舍本部集會室に京大教授黒正博士を聘して「獨逸現在の教育と日本との關係」なる講演を拜聴し、糸島實太郎氏より「映畫教育の實際と理論」についての講演並に十六ミリ教育映畫數種、と氏の撮影にかゝる母校の天然色映畫、校友會大阪支部本年春の近江舞子に於ける鱗網の實況等をの映寫し、有意義なる會合であつた。出席者二十餘名。

昭 三 會



出征員會に寄せる日の旗章

去る十月十五日、新齋橋い「ろは」に於て第四次總會を開催した、本會合は年末に於て催される豫定であつたが、時節柄その時期を繰上げたもので、席上全員一致を以て目下出征戦地に於て堂々の歩武を進められつゝある會員、福本眞一、横田義徳兩君に敬意と慰問の意を表する爲、會員の氏名を自署せる日章旗と感謝激勵の文とを贈ることに決した。尙常任幹事川野勳平君はこの度當地を去つて遠く滿洲の地に轉住することゝなつたので、會員一同より同君の本會に對する功績を稱ら

ひ歡送するところがあつた。當日出席者二十餘名。

斯 文 會

昭和四年度文科卒業校友を以て組織する斯文會の秋季總會は、十月三十一日(日)梅田新道共同ビル内「アサヒビヤホール」別室にて開催す。室内には菊花額部として薫り、今日の清き舊友の集ひを壽ぐが様である。扱集まつてみて其の半數がいづれも見違へる程肥滿してゐるのに驚かされる、學生時代からの快辯家川内君が例によつて一同を煙に巻く、櫻君の映畫製作の話から、話題は日支戦に轉じて豫備少尉宮崎君の氣焰を聞き、紀念撮影をして名残を惜しみつゝ解散したのが十時であつた。

(出席者) 川内平三郎、和田傳三、吉田庄太郎、櫻卯三郎、宮崎操男、神屋敷民藏、安川安太郎、安井章吾、池田信之助

K.O.C.A 會

第三十回例會は、去る廿七日友和俱樂部別室に於て「支那事變座談會」として貴重なるホットニュースに深く感銘、扼腕、引續き事變の經濟並國際法的立場から種々批判と解剖を試み定刻名残を惜みつゝ散會す(次回幹事永岡、大川原)

本會へ入會希望者は下記々入の上往復ハガキにて御紹介を乞ふ、住所、氏名、學校名、科名、年齢、卒業年度宛名は大阪市東區北濱四丁目關西信託内立田君氣付。

動 靜

池内覺太郎君(明四五專法) 徳島地方裁判所脇町區裁判

所判事より神戸地方裁判所洲本支部々長兼洲本區

裁判所判事に轉任、住所兵庫縣津名郡洲本漁師町

尾山 尙介君(天二專法) 北海道帶廣區裁判所判事より

り秋田地方裁判所大館支部豫審判事に轉任

林 忠三郎君(天六專法) 芦原警察署長を退職、大阪

府教護聯盟に勤務

安井 榮三君(天七專法) 大阪地方裁判所檢事より大

阪控訴院檢事に轉任

大野 一雄君(天七專法) 大阪地方裁判所判事より長

崎控訴院判事に轉任

永井 量一君(天九專法) 大阪市電氣局運輸部上本町

自動車運輸事務所長

森 皎君(天二專法) 佐賀縣警察部健康保險課長

住所佐賀市赤松町みどりや旅館内

星野 俊一君(天二專法) 福岡縣社會事業主事

清水 公平君(天二專商) 清水宣傳社經營(東京市神

田區淡路町一丁目一九)電話神田三六一八

稻井 義夫君(天三專法) 大阪地方裁判所判事

脇野徳三郎君(天五大商) 日本電力會社尼崎發電所

(尼崎市東濱町)

山本 稀一君(天五專法) 大阪府警部、警察部防空課

上村 靜馬君(昭二大法) 任警部、市岡警察署より中

津警察署へ轉勤

大野 矩雄君(昭二大法) 任警部、大阪府保安課より

市岡警察署へ轉勤

宮田 平三君(昭三大法) 大阪商工會議所圖書課

岸源左衛門君(昭三大法) 大阪商業學校

池田 昌一君(昭三專商) 坪田鐵工所(此花區朝日橋

通一丁目一二)

國米 龍夫君(昭三專商) 井上商店(西區江戸堀上通

二丁目、昭和ビル内)

本庄 逸郎君(昭三專商) 野村銀行野田橋支店(北區

相生町一八ノ五)

仙波 善教君(昭六大法) 三和製鋼所、住所兵庫縣川

邊郡塚口和樂園

竹内 義一君(昭六專商) 北支派遣川岸兵團加藤部隊

平田部隊成山隊

森田 滿茂君(昭七大法) 神戸製鋼所

梅垣 貞一君(昭七大法) 應召兵(歩兵第八聯隊第三

大隊本部)

淺田祖二郎君(昭七專商) 萬年社營業部、住所港區九

條北通三丁目五〇三、鈴江常男方

朝川二三男君(昭八大法) 朝川莫大小工場(旭區友淵

町一九)住所豐中市櫻塚一五二二

笠原 充美君(昭八專一經) 京城地方法院より平壤地方

專賣局に轉勤、住所平壤府南山町三三、紅葉館内

高岡 正雄君(昭八專二法) 鑄物機械製造會社(西淀川

區佃町一〇三五)住所西淀川區姫島町二二豐田方

盛 又三郎君(昭八專二法) 堺市役所

長島理一郎君(昭八專二法) 警部、大阪府外事課より額

田警察署長に轉任

鈴木 正夫君(昭九大經) 北支天津第四師團第一野戰

高射砲隊

濱本 進君(昭九專一法) 朝鮮總督府京城營林署(京

城府倭城臺)

田中 健夫君(昭九專一法) 石川縣警察部健康保險課よ

り全保安課へ轉勤

廣瀬 卯一君(昭九專二經) 新潟縣立長岡高女教諭

東 喜義君(昭九專二經) 岸和田紡績會社營業部より

全社大垣工場(大垣市青柳町三〇〇)に轉勤

阪口 清君(昭一〇專團) 應召兵(稻井部隊森上隊福

井班)

三木正太郎君(昭一〇專二商) 大阪廣告社、住所兵庫縣

武庫郡精道村芦屋大榎七九六ノ四

岡田 好一君(昭一一專團) 應召兵(助川部隊大槻隊柏

端隊吉井小隊)

飯野 重則君(昭一二天法) 大連工業博物館、住所大連

市聖徳街三丁目一三〇ノ一

崎谷 三郎君(昭一二專一法) 松浦商行を辭し、滿洲國

通信社牡丹江支局に勤務、住所滿洲國牡丹江省寧

安縣牡丹江昌徳街六ノ三、通信社宅

岡田 正治君(昭一二專二法) 大阪市港區役所を辭し、

臺灣總督府交通局鐵道部庶務課福利係へ轉勤

移動

留川 彌直君(大三 專商) 豐中市豐中九一
 中井 彌六君(大四 專法) 北區河内町一丁目二三(電
 堀川三〇三〇)
 山本彌一郎君(大二 專商) 泉北郡濱寺町下石津八五(電
 濱寺二一九六)
 坂口 軍司君(大二三 專法) 住吉區粉濱中之町四丁目一
 五四
 島殿 國彦君(大二 專經) 北區中野町一丁目一五、水
 道部公舎五號
 高沖 次郎君(大二 專經) 泉北郡濱寺町下石津四七八
 竹中治三郎君(大二 專商) 旭區今福町二九九
 坂口 敏郎君(昭二 大經) 大連市錦町六ノ五
 松浦 威夫君(昭二 專商) 神戸市須磨區戶政町三丁目
 一四六
 村田 五一君(昭三 專法) 北區都島中通三丁目三六
 高垣 博行君(昭三 專法) 和歌山縣西牟婁郡田邊町神
 田町六三七
 山田清太郎君(昭四 大法) 三島郡吹田町一三三三
 三谷 豐君(昭四 專法) 北河内郡四宮村上馬伏
 西尾不三雄君(昭四 專商) 名古屋市中千種區中道町二丁
 目七二
 (舊姓 龜) 柳瀬 克巳君(昭五 大經) 西區京町堀通五丁目二六
 藤井梅太郎君(昭五 專法) 宇都宮市小幡町五丁目二六
 七九

黑田 健勝君(昭五 專商) 大連市千歲町一〇、三春方
 立元 四郎君(昭六 專英) 布施市上小阪七六二
 中村 德藏君(昭七 大經) 三島郡吹田町前野二七〇〇
 ノ二
 小林 貞次君(昭七 大法) 中河内郡三宅村
 江原 文造君(昭八 專一法) 旭區中宮町七四八、公園八
 光井 章雄君(昭九 大商) 大連市若松町四二ノ二
 黑田 邦彦君(昭九 專一商) 東區高麗橋二丁目三井生命
 大阪支店內
 山口 馨君(昭九 專一商) 岐阜縣不破郡府中村平尾一
 二七
 (舊姓 大島) 池田駒太郎君(昭九 專二法) 北區都島北通四丁目四四
 中江 達雄君(昭八 專二經) 豐能郡小曾根村二軒家一二
 八八
 半田久壽男君(昭一〇 大經) 東淀川區十三東之町四丁目
 二一
 (舊姓 林) 増田 弘君(昭一二 專一商) 神戸市湊區矢部町三
 二一ノ一、齊藤茂造方
 小山 國雄君(昭一二 專一商) 住吉區山坂町五丁目
 四九
 浦阪 文一君(昭一二 專二商) 住吉區山坂町二丁目
 二九
 石合 善吉君(昭一二 專二商) 住吉區帝塚山中四丁
 目五六、黒田方
 鶴 光男君(昭一二 專二商) 東成區中本町五二九
 ノ七

改姓

(舊) (新)
 (昭五 大經) 藤尾 克巳 柳瀬 克巳
 (昭六 大法) 仙波 要 仙波 善教
 (昭七 大經) 渡邊 英和 杉本 英和
 (昭七 大法) 木村 一良 樋上 一良
 (昭九 專二法) 大島駒太郎 池田駒太郎
 (昭十 專二商) 三上正太郎 三木正太郎
 (昭十一 專一商) 林 弘 増田 弘
 大西愛三郎君(昭二五 法) 昭和十二年十月三十一日
 北井 正雄君(昭二一 專一法) 昭和十二年八月七日

逝去

靴を丈夫にする
 HHH サンエツチ
 靴クリーム
 大坂本舗 林式
 東京本舗 會社 新藤商店



第十二回 大學祭

學友會主催第十二回大學祭は去る十月十七日午後一時より中之島中央公會堂に於て開催した。

宣言文朗讀

開會を宣して全員起立、宮城及び大廟を遙拜、國歌合唱に次いで學友會會長神戸博士の式辭、時局に對する學生の宣言を朗讀し、出征將士に對する感謝電文の決議をなし、それより本學關係戰歿者の靈に對し默禱を捧げ、學歌を合唱、萬歳を三唱して閉式した。

宣言

四隣ノ親マザルハ 聖皇ノ憂ヒ給フ所ニシテ諸邦ヲ協和スルハ鴻謨ノ存スル所ナリ。而ルニ西隣民國ハ小嫌ヲ以テ大策ヲ誤リ、妄リニ爭端ヲ構ヘテ以テ



神戸學長 岩崎 揆

今次ノ事變ヲ發セリ。是ニ於テ 皇帥ハ陸ニ海ニ空ニ大イニ威武ヲ奮ヒ以テ其迷妄ヲ覺醒セラル、彼未ダ懲ル所ヲ知ラズ歐米諸邦亦或ハ皇國ノ信義ヲ諒セズ豈ニ悔クベキナラズヤ。吾人ハ須ラク 聖旨ヲ奉體シ鴻謨ニ遵由シ各々力ヲ其本分ニ盡シ堅忍自重シテ學ヲ勉メ職ヲ勵ミ以テ忠誠ノ志ヲ致シ率先善誘シテ意ヲ誠メ荒ヲ厲シ以テ奉公ノ誼ヲ效サザルベカラズ
右宣言ス

感謝電文

皇軍ノ威武全支ヲ壓シ東洋平和ノ光明ヲ啓ク、コレ將士御勇戰奮闘ノ賜ナリ偏ニ感激ニ耐ヘズ謹ミテ武運ノ長久ヲ祈ル

次いで午後二時より公開時局講演會に移り、聽衆に多大の感銘を與へ、それより大毎、大朝兩新聞社提供にかゝる支那事變ニユース映畫、並に軍事映畫「最後の戰闘機」を映寫し、盛會裡に午後十時散會した。

講演者及題目は左の通りである。

戰時に於ける思想と統制

教授 岩崎 卯一

支那の軍隊に就て

陸軍歩兵中佐 小林 秋夫

支那事變と我が國際關係

大毎東亞部長 長 阿 克 曉

經濟的國民精神の動員

教授 正井 敬次

關大スポーツ

陸上競技部

對法政大學定期戰 第十四回

十月十六日、於慶應日吉臺競技場

關西大學 88分 — 8分 法政大學

百 米

①川手 輝典 11秒2

③家塚真佐已 棒高跳

⑤岩尾 憲和

①安井 昌一 3米

②近藤 滿一

④戸上 研之

②權代 克己

③戸上 研之

①渡橋 義明 4分36秒2

⑤小池 清

④渡邊 敏夫 高障礙

②大室 雅彦

①福田 時雄 16秒4

②大室 雅彦

①近藤 滿一 1米65

⑤戸上 研之

③大室 雅彦 四百米

③古川 元治

①鈴木 喜造 54秒8

③古川 元治

①戸上 研之 43米89

⑤福田 時雄

走 幅 跳

①小椋真佐已 6米72

⑥戸上 研之

④福田 時雄 五千米

⑥戸上 研之

③渡邊 敏夫 八百米繼走

④渡橋 義明

①關西大學チーム 1分38秒
(1川手、2小椋、3鈴木、4福田)

對和歌山高商戰 (專門部)

十月三十一日、於大阪商大競技場

關大專門部 10分 — 2分 和歌山高商

百 米

①小椋 11秒2 ③楠瀬

槍 投

②小椋 ④大室

千五百米

②白井 ④直原 ⑤門田

走高跳

①近藤 1米85

砲丸投

①小谷 10米88 ⑤權代

高障礙

①小椋 16秒8 ③安井

棒高跳

①安井 3米40 ⑤權代

四百米

②近藤 ⑤直原

走巾跳

①小椋 6米81 ②近藤

圓盤投

①權代 33米79 ⑤小谷

八百米

②白井 ④門田

三段跳 ①近藤 13米80

②小椋 ③安井

八百米繼走 ①關大チーム 2分35秒9

(1楠瀬、2村田、3古川、4小椋)

野 球 部

關西六大學リーグ戰 (三)

十月九日、於京都西京極球場

關西大學 5 — 2 京都帝國大學

關大 3000100010005
京大 0001000010005

バッテリー (關大) 肥下、宗内、宮川
(京大) 福村、矢野

關大 32530633 二壘打磯野
京大 117331429

十月十日、於京都西京極球場

關西大學A — 3 京都帝國大學

關大 000000003A03
京大 005000001A03

バッテリー (關大) 福村、矢野
(京大) 吉川、吉松、岡本

關大 10370531 二壘打 佐々木
京大 01110734 本壘打 黒田

策壘死振打打數 失盜四三犧安打

斯くて秋季リーグは本學十戰全勝優勝

對立教大學

十月二十三日、於藤井寺球場

立教大學A — 4 關西大學

關大 0000020202A4
立教 0000124002A9

バッテリー (關大) 宗内、岡本、釣
(立教) 西郷、小山、町田

關大 201192430 策壘死振打打數
立教 03910934 失盜四三犧安打

十月二十四日、於藤井寺球場

庭 球 部

對法政大學定期戰 (第十三回)

十月九日、於東京新井藥師コート

關西大學 7 — 2 法政大學

(ダブルス) 一勝二敗

中村 (關大) 6 — 3 6 — 0 小谷 (法政)

今井 (關大) 6 — 1 橋本 (法政)

谷口 (法政) 6 — 3 4 — 6 廣瀬 (關大)

吉田 (法政) 6 — 3 川勝 (關大)

廣部(法政) 6-4 倉光
松本(法政) 3-6 奧村(關大)
十月十日

(シングルス) 六勝零敗

中村(關大) 6-1 永江(法政)

今井(關大) 6-1 橋本(法政)

川勝(關大) 7-5 小谷(法政)

奧村(關大) 6-4 吉田(法政)

廣瀬(關大) 6-4 谷口(法政)

倉光(關大) 6-2 松本(法政)

日獨交歡對抗

十月二十九日、於甲子園コート

ヘンケル 6-4 倉光

籠球部

關西學生リーグ戦

十月十六日、於甲子園コート

第一部

關西大學 40-25 甲南高校

十月二十三日

京都帝大 51-43 關西大學

十月二十四日、於京都三中
京都帝大 45-36 關西大學

明治神宮體育大會

十一月一日、

男子一般准々決勝

關西大學(大阪) 63-46 神陵俱(京都)

同 准決勝

RKM 41-18 關西大學
(東京) 21-14 (大阪)

對慶應大學戦

十一月三日、於東京神田YMCA

關西大學 57-23 慶應大學

蹴球部

十月二十四日、於今宮中學

關西大學 8-1 大阪俱樂部

關西學生リーグ戦

十一月三日、於南甲子園運動場

第一部 (對神戸商業大學)

神商大 3-1 關西大學

(關西大學) 7-6 7

(神商大) 14-2 2

卓球部 (千里山)

對同志社大學定期戦 第五回

同志社大學 8-5 關西大學

十月十日、於同志社大學

一回戦 同志社 5-4 關西大學

二回戦 同志社 3-1 關西大學

本學選手 塚本、坂田、若林、谷口、
小川、西村、島崎

本學豫科對專門部一部戦

十月二十二日 於天六學舎

一回戦 豫科 4-1 專門部一部

二回戦 豫科 4-1 專門部一部

豫科選手 西村、生野、渡邊、揖斐
島崎

第四回學内大會

十月二十九日、三十日

學部之部優勝戦 於千里山卓球場

大野(法二) 2-0 池田(商二)

豫科之部優勝戦

松岡(二豫二) 2-1 金森(二豫一)

明治神宮體育大會 於東京麻布小學校

十月三十日

第一回戦(坂田) 2-0 伊藤(長崎)

第二回戦(坂田) 2-0 蘆堂(朝鮮)

第三回戦(坂田) 0-2 今井(東京)

對大阪外語戦 (專門部二部)

十月十九日

關大專門部 7-2 大阪外語

ホッケー部

對京都帝大戦

十月十一日、於京都帝大
京都帝國大學 3-0 關西大學

ラグビー部

十月十日、於花園競技場

關西大學 25-15 學士ラガー

對同志社大學戦

十月二十四日、於花園競技場

同志社大學 78-0 關西大學

全國高專大會大阪豫選

十一月三日、於花園競技場

大阪外語 22-0 關大專門部

柔道部

名古屋對大阪學生對抗 第七回

十月三十一日、於名古屋武德殿

兩軍共に出場者各々三十名

大阪軍は辻(關大豫科)の活躍で前半リ
ードしたが、次第に名古屋軍盛り返し、

大阪軍の金丸(關大豫科)笹岡(商大高商)並びに江河(關大)の奮闘も効なく、名古屋學生軍は不戦三名にて勝つ。

(關大出場者二十名)

(名古屋軍) (大阪軍)

山本	(高商)	有リ二〇辻	(關大豫)
久野	(高工)	崩上〇辻	
林	(高商)	〇縱四辻	
林	(高商)	引分	宇田賀(關專一)
和田	(八高)	引分	阪東(關大豫)
永井	(高商)	引分	和田(關專二)
横田	(八高)	引分	今榮(關大豫)
水野	(高工)	引分	清水(關專一)
石黒	(高商)	崩上四方	〇江河(關大)
山口	(八高)	引分	江河
江場	(高商)	引分	菅沼(關大豫)
山田	(高工)	崩上四方	〇金丸(關大豫)
神谷	(高商)	〇片羽絞	金丸
神谷	(高商)	引分	大飼(關專一)
伊藤	(八高)	引分	津田(關專二)
北條	(八高)	引分	越田(關專二)
曾我	(醫大)	引分	宮里(關專二)
岡村	(高工)	引分	中村(關大豫)
山下	(高商)	引分	納(關大豫)
城戸	(高商)	引分	生田(關專一)
池田	(高商)	引分	中山(關專二)

拳闘部

明治神宮體育大會

十月三十一日、於神宮相撲場

第一次試合不戦勝

フライ級、濱口・フェザー級、稻田

十一月二日、於神宮相撲場

准決勝

フライ級 濱口(關大)判定川上(中部)

フェザー級 稻田(關大)技倒一回終了

盛(北海道)

決勝

フライ級

朴春緒(關東)判定 濱口大二郎(關大)

フェザー級

稻田信男(關大)判定 鄭鳳鉉(朝鮮)

相撲部

明治神宮體育大會

十一月一日、於神宮相撲場

第一日 三回戦迄の成績

①14點 關學、専大

②13點 關大、拓大、同大

③12點 明大 ④11點 中大

馬術部(豫科)

對大阪外語戰

十月三十日、於城東練兵場

連續障礙飛越競技(減點法)

關大豫科 61-101 大阪外語

(出場者) 中里、安藤、齋藤、森下

射撃部(千里山)

中等學校射撃大會

十月十日、於大阪城南射場

(團體)

①京都市立一工 162

②甲南高校尋常科 171

③天理中學 170

(個人)

①村島(奈良商) ②市橋(京市工)

③中村(今宮中)

對拓殖大學戰

十一月一日、於東京大久保射場

關西大學 56-519 拓殖大學

對法政大學戰

十一月二日、於東京戸山射場

關西大學 507-456 法政大學

對早稻田大學戰

十一月五日、於東京大久保射場
早稻田大學 671-529 關西大學

對關西學院大學定期戰(專門部一部)

十月十七日、於大阪城南射場

關大專門部 500-39 關西學院大學

(一回) 219-165 (一回) 271-164

弓道部(專門部一部)

明治神宮體育大會

十一月二日、於神宮內苑

大學高專第一回戰

(六中) 關大專、山形高、立命、水高

國學院、立教、阪大、成城高

東高鷺、宇都宮高農

フェンシング部

去る十月二日、慶應大學フェンシングクラブと對抗戦の爲、大阪フェンシングクラブと共に上京、三日午後一時より東京神田Y・M・C・Aに於て試合を行ふ。

我が關西大學フェンシング部としては最初の東都遠征にして、善戦好成绩をおさむ。

當日の成績左の通り(尙五本先取にして十五分)

○田中龍一郎(關大)⑤
V・S ③×望月 研造(慶應)
×八尾壯比古(關大)④
V・S ⑥C中山 昇(慶應)

學生

皇陵崇敬會(千里山)

第四次十五回例會

大和尼ヶ辻西大寺方面に舉行す。午前九時大軌上六發、尼ヶ辻驛にて下車、先づ垂仁天皇菅原伏見東陵に參拜、次いで同御陵の遑の中東南にある田道間守命墓を拜す。それより東南に進み、唐招提寺藥師寺に參詣、引返して安康天皇菅原伏見西陵へと向ふ。途中偶然にも森田兄宅の前を通りかゝり、好意により栽培の柿を御馳走に預り、その風味を賞でつゝ、菅原伏見西陵の參拜を終へて菅原神社に至る。此處にて森田兄と別れて後喜光寺境内にて晝食を攝る。此處より北に進むこと一里、途中西大寺に參詣、記念撮影をして神功皇后狹城盾列池上陵に參拜。次いで垂仁天皇皇后日葉酸媛命狹木寺間陵を拜し、成務天皇狹城盾列池後陵に參る。それより西南三丁ばかりの處に稱徳天皇高野陵を拜す。稱徳天皇は孝謙天皇が御重祚遊ばされ女帝に在はします。更に東に進んで公家茶屋に至り、平城天皇楊梅陵に參拜す。かくて絶好の行樂日和に恵まれて本日の豫定を終了、バスにて奈良に出で、大軌終點前にて解散す。

參陵會

(大先記)
(參加者) 芳村、大先、飯田、北川、石田、佐々木、濱田、澤田、金重

第二次十九回例會を十月卅一日京都北野御室花園方面に舉行す。

此日會する者十四名河村信一先生の御見送りを得て午前八時半大阪驛發京都驛にて二名の會員を加へ直ちに北野に到り天滿宮に參拜す。其より第六十五代花山天皇陵第六十七代三條天皇陵と順次參拜し、徒歩約十五丁なる龍安寺に至り境内を通り抜けて山上(衣笠山)なる第六十九代後朱雀天皇陵、第七十代後冷泉天皇陵第七十一代後三條天皇陵に參拜し、其處より尙登りて第六十六代一條天皇陵第七十三代堀河天皇陵に參拜し、其後山越しにて約二十丁會員一同よく強行して第五十九代宇多天皇陵に參拜後、約九丁なる仁和寺に到り門前の茶店にて晝食をとり漸く空腹を満す、正に午後一時。

次で第五十八代光孝天皇陵、第六十四代園融天皇陵、第六十二代村上天皇陵、第五十五代文德天皇陵と順次參拜を終り一同嵐山電車にて北野驛に歸着し、和氣瓢々の中に解散す、時に午後二時五十分

(參加者) 小林會長、小石先輩、淺野、島田平野、越智、後藤、澤田、山根、田坂、葛井有長、岡本、北野、武田 特別會員佐澤の諸君、計十六名

商業研究會

待望久しき夏期懸賞論文は本會顧問諸教授の御懇篤なる審査嚴選の結果左の如く決定す。

一、入賞者(會長賞狀及び入賞牌)

中小工業の諸缺陷と統制上の諸問題

岩本 敏(商二)

金本位制の將來性 井上清次郎(商二)

一、佳作入選者(會長賞狀及び佳作牌)

支那に於ける日英經濟力の關係に就て

藤塚 嘉治(商二)

女子賃銀の安價なる理由に就て

尾花 壽男(商一)

我國近時の物價騰勢の前途と生産力の擴充

久恒 典盛(商二)

平時準戰時戰時經濟 石川 滋夫(商二)

金輸出入と爲替相場との關係 岩本 敏(商二)

我國乘合自動車業の現狀に就て

堀内 眞(商二)

猶右入賞者及佳作入選の一部は「關西大學學生新聞」の多大なる後援の下に紙上に發表、殘部は機關誌「商業研究」誌上に發表す。

本會機關誌「商業研究」は次年度役員

の試金石として内容充實を期し、十一月

廿五日發行。

懸賞論文入選者發表會を兼ね、秋季總

會を梅田新道共同ビル地下アサヒビヤ

ホールに開催、第二次會として次年度會

員主催にて第三學年本會々員の送別式を

多數顧問諸教授の臨席を仰ぎ盛大に舉行

す。

東亞研究會

東亞研究會

十月二十日、於玉造アラスカ

第二回討論會

北支事變初まつてこゝに三ヶ月、忠勇なる將兵は全力を擧げて有らゆる困苦に打勝ち、暴支をこらしめんとして大いに戦ひつゝある。この間我國内問題又國際問題は益々多事であつて舉國一致の實を擧げねばならない。

この時にあたり東亞研究會が討論會を開催したことは眞に有意義なるものであつたと信ずる、出席會員二十三名、終了後次年度役員を決定す。

幹事長 嘉手川整 總務 高橋豐隆
副幹事長 井畑一雄 會計主任 山中榮雄
編輯主任 黒川重之 外交主任 平山攝洋男
討論主任 松島 央 記録主任 岸田善次郎

經友會

經友會第一回研究發表會は十月十一日(月)午後八時より二十三教室に開催したが當日は指導教授中川唐太郎先生の研究發表に對する諸注意の後左記の學生の研究發表あり盛會裡に午後十時閉會した尙當會は盛會に鑑み十二月初旬第二回を開催する豫定である。(研究部)

左記

- 一、低金利政策の發展(經二) 小林吉雄君
- 一、日支事變に於ける公債發行と増税について(經三) 吉田敬明君

一、新經濟地理學の嚮導概念

(經二) 出原正巳君

一、民族について(經三) 中尾俊夫君

一、日支交戦の學的考察(經三) 平澤農一君

經友會は學生の本分に邁進し經濟學科充實に拍車をかけてゐるが此度更に學生の學術研究の一助と爲す可く機關雜誌の發行を劃し、神戸學長殿の御命名に成る

國文學會

十月二十四日、(奈良行)

皆んなが團結せねばならぬ秋、國文學會は國文學會らしく、しつかり團結しよう。又出征將士の武運も祈ろう、史跡も見て、目を肥そうと云ふので、此の日、奈良行を決定しました。

秋天は、清く澄み戦火我關せず顔に流るるともなく浮く白雲、一方は、我將士の爲と、幟旗を押立てて、春日の社へと流れて行く人々。其の流に添つて、我々も春日の社に行き、先ずは國運を祈り、金子先生、津田君等を初めとして、出征將士の武運長久を祈りました。

其より道を南に取つて、高圓山より新藥師寺へ出ました、途中、土壁の内には澁流が甘そうに眞赤に、

「經國濟民」第一號發刊準備着々と進行、十二月中には發刊の豫定であるから會員たる經濟學科全學生の眞摯なる學術論文の投稿を期待してゐる。(雜誌部)

奈良縣人會(專門部一部)

十月二十三日(土) 於上六いづもや

第二回親睦會を開催し、吾々の意氣正に何ものをも恐れず、三年生一同の卒業を前にして眞に有意義に頼母しき將來を語りつゝ、聖地奈良縣を心ゆくばかり讃へて、一同の活躍を期しつゝ夜の更けるのも忘れて盛大に會を開けた。

校もたわに鈴成りになつてゐました、しみんと

奈良の町の田舎道を歩きました。

新藥師寺は、聖武帝の時出來上り、後雷災にあつて一部のみがのこつたのを、今の金堂にしてあり、其の周圍の東門南門等は皆鎌倉時代のもので、全部特別保護建築物であります。

金堂には天平時代の光明皇后の建立された、木彫丈六の藥師像を中央に、ぐるりと同じく天平時代の十二神將塑像がぐるりと取まかれてゐます。此の十二神は藥師様の十二大願に應じて一日を十二時わけて、一人づつ、世に出てお守りなさるといふ夜叉神ですが、其のお顔のすざましき、其に對する藥師様の柔和さ、このコンビ、思ひなしか、支那における日本軍の事が聯關して、思ひ起されます。

此所には、聖德太子御建立の御本尊胎内佛たる白鳳時代の鑄像香藥師様が別の新しい寶殿に安置されてゐる

(出席者) 西村勝太郎先生、島田、生田、山口、澁谷、阪本、安西、石田、葛井、井上、板木、片岡、松實(以上十三名)

關大畝中會

建國の聖地として將又櫻花と史蹟を以つて全國に誇りある存在を示して居る我が奈良縣、中にもその中央に位し、皇祖發祥の靈場畝傍の地に、大和三山を仰ぎつゝ日々に新たなる知を研きて、同じ畝傍の學窓に育つて來た我等の感激と誇りは、言語にも表現し得ざるものがあるのである。

自他共に皇道の眞の體得者として、日本精神の發揚者として許して居る奈良縣立畝傍中學校卒業生にして、關大に學ぶもの多數に上り、今回關大畝中會を創設し、畝傍健兒の氣勢を擧げた。即ち學部荒井君、豫科竹島、高木君、專門部石田君等の努力に依り、畝中會第一回の會合は十月二十九日心齋橋のいはに於て開かれた。我等は奈良縣に生地を持ち畝傍の地に育てられた事を永久の誇りとして、力強き發展を誓ひ合つて、夜の深まるのも構はず盛會に畝中會を終つた。

ます、何となく、俗離れした、尊いお顔に拜されました。

此所で、一同早い晝飯をすませ、辨當を持參せぬ一組は早速柿を攻撃して、腹をおさめ、萬葉植物園へ出掛けました。

一廻りするのには、十分もかかる如き餘り大きな植物園を、二時間以上も掛つて、未だ時間足すと云ひ出す位、一つ一つ、植物の方で、はずかしがる位に熱心に見て廻りました、今も昔も變らぬ日本人の自然愛好がしみんと喜ぶこぼし思ひました。

此を出て、若草山の横を通つて二月堂より三月堂、大佛殿を過つて、興福寺、南圓堂へ出て來ました。今日一日の、楽しかつた、有益だつた、奈良行の一日を、此所で解散しました。

當日同行者、新町先生、田中先生、先聲吉永氏等二十七名。

(雅好記)



俳壇

朝 冷 選

第十五回十月例会

天六學舎三階會議室に於て、十月二十三日(土)午後六時半より開催す、採録句は左の通り。

安井 龍章

秋晴や英字紙まろく屑籠に

天高し笑み征く兵と小學生

(中等學校拂曉戰)

霧深く少年鼓隊進み消ぬ

神屋敷蒼生

友征きぬ丹精の菊未だ咲かず

學舎静か街に進軍譜の澄むに

終止驛近づき蟲の鳴きしきる

谷口 涼一

コスモスの露けき花に立話

風も出て秋雨勤めの夜を打つ

秋天に哀愁の念なしとせず

永幡彌壽夫

稲うれて農大いくさに出でゆけり

藤井鬼峯子

アパートの小鳥の籠に秋霽るゝ
東京へ葎送りやる旗日かな

中塚 素木

日章旗はるかに高し鱗雲
沈黙の凱旋天は時雨かな

上田 呂史

星空へ萬歳消ぬ雁が渡るく
いちじくが熟れて乳房がかたい秋
若き僧

煩惱にたへず夜寒を木魚打つ

黒杭 豆刀

戦傷の痛さ言はねど夜が冷ゆる

天澄むで飛機編隊の西す見ゆ

秋の夜やいくさを夢と寝たり子ら

鵲猛り出征兵の家空ろ

無名生

秋雨やラヂオ戦捷を告げて終る
佐澤比呂志

軍需貨車落暉の海につきすゝむ
貨車兵を吐く大らかな秋の海へ

岸 風三樓

秋は星うつくしく戦さ遠くあり
賣卜先生街樹に黄なる灯を守り

飯田 正一

露けさや一つ消えたる祭の灯

投稿句

山野井昂星

越え來たる丘の緑に秋れぬ

樹頭なる團栗とれる我笑まし

秋晴の山にし白聖のホテル見ゆ

"Ideal"

アイデアルカラー

最高級詰襟カラー

経済

優美

堅牢



三國セルロイド株式会社

馬場 洗月

目一ッばい稲田の果てや山晴るゝ
(日支事變)

ますらをの面に強く秋陽かな
城壁に秋天空の日章旗

十一月例会報告

學報俳壇十一月例会を、左の通り開催致します、學友同好諸君の御出席を希望します。

日時、十一月二十日(土)午後六時半
場所、天六學舎三階會議室

「當季雜詠七句」

有田朝冷先生出席

大正十二年七月十五日創刊
昭和十二年十一月十五日印刷
昭和十二年十一月十五日發行

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

編輯人 神屋敷 民藏

印刷所 谷口印刷所

發行所 關西大學學報部

大阪市北區堂島上三丁目十五番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

關西大學學會發行

關西大學研究論集

第一號 昭和九年十月發行
第二號 昭和十年六月發行
第三號 昭和十一年一月發行
第四號 昭和十一年七月發行
第五號 昭和十一年十二月發行
第六號 昭和十二年一月發行

定價 各十錢

發賣所 甲文堂書店
大阪市東區山崎長柄中道
振替六二五二〇番

第七號 法律・政治篇

(昭和十二年十一月發行)

天皇主權……………	教授	吉田	一枝
天皇統治に於ける臣民翼賛の意義……………	教授	岩崎	卯一
滿洲國新政治組織……………	教授	大山	彦一
集會結社の警察制限……………	教授	中谷	敬壽
既得權の國際的尊重の原則に付て……………	助教授	柳瀬	兼助
法律解釋の現段階……………	教授	和田	豐二
明治初期の身元保證……………	教授	西村	信雄
衝撃に續く肉體的損害の賠償に付いて……………	教授	本莊鐵次郎	
婚約法と内縁法……………	教授	木村	健助
商法第十九條(商號排他)を論ず……………	教授	野村	次夫

第七號 經濟・商業篇

(昭和十二年十一月發行)

營業稅の課稅物件……………	學部長	神戸	正雄
コンラアドの流通經濟機構……………	教授	赤羽豐治郎	
ナチス經濟再建の組織……………	教授	磯部	喜一
商業經營經濟及賣買活動に就ての若干の考察……………	教授	加藤金次郎	
輕市に就きて……………	教授	瀧澤喜子雄	
世界經濟の段階的及成層的構造……………	教授	中川庸太郎	
日本國民性の世界史的意義……………	教授	古川	武
金融統制と我國の經濟情勢……………	教授	正井	敬次
信用資源と金融市場……………	教授	森川	太郎

第七號 文學・哲學篇

(昭和十二年十一月發行)

教育理想としての菩薩道……………	教授	三枝樹正道	
孟子の檢討……………	教授	藤澤章次郎	
キエルケゴールの實存段階……………	教授	大小島眞二	
詩人ハイネ素描……………	助教授	板倉	賴音
Aldous Huxleyの背後……………	教授	堀	正人
Noel Cowardの戯曲……………	教授	山田松太郎	
Expanded Forms に於ける主觀性……………	助教授	八鳥	治一
増加率論……………	教授	河村	信一